

数字でみる 抱樸館を支える会

賛助会員	賛助会員	賛助会員
共同購入組員	店舗組員・一般(組員外)	グリーンコープの取引先
11,468 人	147 人	97 社
※2025年8月現在	※2025年8月現在	※2025年8月現在

会員の皆様には隔月で、「抱樸館を支える会」の会報をお届けします

賛助会員(会費)は、一度お申し込みいただくと、翌年以降からは自動更新となります

※二重のお申し込みにご注意ください



「抱樸館を支える会」の会費は、抱樸館の運営に活かされています

2024年度 寄付金	こども基金・フードサポート
抱樸館 福岡 抱樸館 北九州 抱樸館 熊本 へ	
1,900 万円	1,000 万円
※2024年度	※2024年度

「抱樸館を支える会」への会費は、様々な支援にも活かされています

- グリーンコープが運営する「みんなの居場所」へ運営支援や食材を提供
- 地域の「子どもの居場所」や「子ども食堂」へ運営支援や食材を提供
- 小中学校の朝食支援への食材提供など
- 生活困窮者の相談窓口へのフードサポート

抱樸館福岡 (福岡市東区)

2010年5月に開所。居室数は81室。そのうち12室は、福岡市から受託した一時生活支援事業のシェルターとして、緊急に住まいが必要な方が利用している。また、2021年9月より福岡市からの認定を受け、日常生活支援住居施設として30室が稼働中。一人では暮らすことが困難な方が利用している。

開所からこれまで**1,694**人以上の方が利用
(2025年8月末時点)
〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館熊本 (熊本市中央区)

2013年6月に抱樸館熊本準備室を立ち上げ、2018年12月に名称を「抱樸館熊本」と改め運営。居室数は19室。

開所からこれまで**500**人以上の方が利用
(2025年8月末時点)
〒860-0811 熊本市中央区本荘

抱樸館北九州 (北九州市八幡東区)

2013年9月に開所。NPO法人 抱樸が運営している。居室数は30室。終の住処として、あるいは自立に向けた入居(自立支援住宅)として入居者の状況に応じて対応している。施設内に、レストランやデイサービスセンターも併設。

開所からこれまで**112**人以上の方が利用
(2025年8月末時点)
〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11

お問い合わせ

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号
博多大博通ビルディング10階
Tel 092-482-1964

一般社団法人 抱樸館を支える会

抱樸館便り

ホームレス支援から始まった「抱樸館」は、生活困窮者が自立に向かうためのステップの場です



「つながりを取り戻す「抱樸館」という希望」

あなたも「抱樸館を支える会」の会員になりませんか

賛助会員大募集!

抱樸館を支える会の目的

ホームレス者及び生活困窮者自立支援事業

抱樸館(福岡、熊本、北九州)の運営を支援し支える

抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動

「抱樸館を支える会」会報誌発行
抱樸館見学・出前講座、随時受付

生活困窮(ホームレス)事業に付帯する業務

子どもたちへの支援など
みんなの居場所、生活再生・自立相談支援機関へのフードサポート支援

共同購入申込書の「特別申込欄」にお書き込みください

年会費 分割	1300
1口 月250円×12回	
年会費 一括払い	1299
1口 1,000円	

← 賛助会員の詳しい申し込み方法は裏面をご覧ください。

Autumn. 2025

「抱樸館を支える会」賛助会員は、いつでもお申し込みいただけます

グリーンコープの共同購入組員の方

「抱樸館を支える会」年会費

1300 分割	1299 一括払い
一口 250円 ×12回 (年間3,000円)	一口 1,000円

毎月の商品代金と一緒に250円引き落としとなります

お申し込みいただいた月の商品代金と一緒に毎年一括で引き落としとなります

申し込み方法

- 毎週の共同購入申込書の特別申込欄でお申し込みください



- WEB/スマホの場合 GCweb(インターネット注文)の利用登録をされてる方



- 「LINE注文」からもお申し込みいただけます。スマホの画面で、お申込番号「1300」または「1299」をご入力ください

一般の方、グリーンコープの店舗組員の方

- 郵便振替でお申し込みください
- 一度に何口でもお申し込みいただけます(一口1,000円)

郵便振替 **01710-0-123003**
(一般社団法人 抱樸館を支える会)

「抱樸館を支える会」への会費は、 抱樸館を運営していくための大きな支えです。

「抱樸館」は生活困窮者が 自立に向かうためのステップの場

- 抱樸館は、生活に困窮し、住まいを失った方たちの「ハウス(家)」となり、同時に「ホーム(心のよりどころ)」となって、再び地域で生活していけるように支援していきます。
- 入居期間中は一人ひとりに相談員が寄り添い、手作りの食事や共同生活を送る仲間たちとの触れあいなど、温かい関係性の中で自立に向かえるよう支援します。
- 退居後に地域で自立した生活を送れるよう、グリーンコープのファイバーリサイクルセンターなどでの就労訓練や、各種自立支援プログラムによってサポートします。



抱樸という言葉に込めた思い

ほうぼくとは聞きなれない言葉ですが、抱樸の「ほう」は抱く、「樸」は伐り出されたばかりの原木。表面がざらついても「そのまま抱きしめるから、今困っている方、抱樸館においでください」という意味です。



抱樸館を支える会の賛助会員になっていただいた組合員の方に、2ヵ月に一回「抱樸館を支える会」の会報誌をお届けしています。

会報誌の内容を一部ご紹介します



2023年12月 vol.62より

特集 今、困窮者支援は…

困窮者支援の現場で行われた、様々な行事の様子を紹介しました。

設立10周年記念行事での奥田理事長の講話より
抱樸館北九州の歩み、そしてこれから

(一部抜粋)

「抱樸館にいたら元気になる」と言います。「何かしてあげる」とか「問題を解決してあげる」ということではなく、人の繋がりがそもそも力を持っているんだと思います。抱樸館は「正しく生きるため」や「問題なく生きていくため」の施設ではない。「問題があっても生きていけるため」の場所なんだと思います。抱樸館の中だけが楽しいのではなく、抱樸館があることによって、社会が楽しく明るくなる—そういうものになって欲しいです。

「自立」とは何だろうか。繋がりが続くこと、繋がりを増やすこと、その中で元気になるっていくこと、依存先を増やすことだと思います。社会復帰とは何だろうか。そもそも社会復帰が成立しないなら「社会を創造するしかない」と思います。

多くの方々のかかわりの中で、抱樸館は日々成長していきます。これからもご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



ただいま!おかえり!抱樸館北九州10周年PARTYの様子



奥田 知志(おくだ ともし)さん
1963年滋賀県生まれ。NPO法人抱樸館理事長。学生時代からホームレス支援に携わる。※希望のまちプロジェクト推進本部代表



2024年4月 vol.64より

特集 今なぜ「居場所」なのか

社会福祉法人グリーンコープ顧問
行岡みち子さんから、「なぜ居場所をつくるのか」をお聞きし、各地域に根ざした多様な居場所を紹介しました。



グリーンコープが居場所をつくるわけ～行岡みちさんに聞く (一部抜粋)

居場所の必要性を感じたきっかけは、2006年から始めた生活再生事業でした。生活や様々なことで困って相談に来られる方は、孤立し独りで悩み続け、ぎりぎりの状態になっているケースがほとんど。仕事があっても家族がいても、誰にも相談できず、ちょっとしたきっかけで行き詰まってしまうことがあります。

そんな相談者に支援員が寄り添い、その困りごとを解決しますが、支援員との関係がなくなると、また孤立状態に戻り一人ぼっちです。結局、ふらつと行けて誰かと気軽に話したり、愚痴を言い合ったりする場所や、人とのつながりが少ないことが生活困窮の要因のひとつだと思います。



行岡 みち子さん
・生活再生事業推進室長
・社会福祉法人グリーンコープ 顧問
・グリーンコープ生活協同組合連合会 顧問
・一般社団法人 生活困窮者自立支援 全国ネットワーク 事務局長



2025年6月 vol.71より

特集 食材提供に支えられて

抱樸館福岡の食事はグリーンコープのお取引先などから無償提供いただく食材に支えられています。提供いただいた食材、55のメーカー・生産者、メニューなどを紹介しました。



シーフードの中華炒め



ハンバーグ



ピビンパ

2010年5月開設当初、食材のすべてを購入していました。2012年1月にお取引先に食材提供をお願いし、たくさんの食材を提供いただけるようになりました。その結果、より安心して食べていただける食材を使って食事提供ができるようになり、食材費を削減することができています。

4月号より
会報誌アンケートを実施中!

ご感想の一部を紹介します!

抱樸館の取り組みが時間をかけ、ゆっくりと九州全域に広がっていると感じました

私も誰かの役に立てるように、これからも忘れず考え、行動しようと思いました

毎回会報誌を楽しみにしています。職場に持って行って回覧することもあります

お金(ささやかな)での応援しかできないのがもどかしいですが、応援し続けます

微力ながら継続して支援していきたいと思います。皆さんの活動を応援しています。感謝

わずかながら支える側にあります。会報誌を観ながらチームの一員であることを感じています。これからも応援していきます!